



禅の心

第152号

発行 安住寺（年4回発行）
臨済宗南禅寺派
大分県杵築市大字南杵築379
〒873-0002 TEL 0978-62-2680
<http://www.anjyuji.net>

編集 矢野明玄
印刷 安住寺

放射能汚染地区・飯館村に学ぶ

閑栖記

今年の七月、杵築市区長会の視察で福島県飯館村を訪ねた。いわき市より常磐自動車道をしばらく走ると右前方に高圧線鉄塔が見えて来た。車中より「あれが第一原発か」との声があがる。田園地帯に点在する家の付近には、全く人影も無く田んぼらしき農地には、雑草と3m程に伸びた雑木が育っている。双葉町だ。浪江ICを降りて飯館方面に向かうと、あちこちに黒い袋が三段位に積み上げている。除染した雑草や土を入れたフレコンパツクの山だ。

成熟社会を歩む指針に

やがて一行は、村役場に到着。除染推進課の担当者より現状の報告があった。地震発生から九分後に災害対策本部を立ち上げ被害状況の把握に努めていた。翌日、国は避難指示範囲を原発から半径20kmに拡大した。飯館村は一番近い南部で30kmに位置する。三月十四日十一時頃、原発が水素爆発を起こす。翌日の正午頃、放射線量が四四・七マイクロシーベルトを記録。その後、住民避難が始まり、四月二十二日に国が全村を避難区域に指定。学校を隣の川俣町の支援を受けて移転した。現在

村役場は、福島市の建物を借りて業務を行っているが、除染推進課は担当職員が村役場に通って対応しているという。全国各地より作業員が来て一日五千人余りが除染の仕事をしている。屋根は拭き取り、草木は刈り取り、表土は5cm除いて新しい汚染されていない土を敷きつめている。詰め込んだ袋に水が入らないようにシートを掛け、ガス抜きのパイプを設置した仮置場が至る所にある。未だ中間処分場所すら決まっていないという。村内を視察した後、福島



菅野典雄村長

市は飯庁舎で菅野典雄村長に面会。震災から四年間を振り返つての苦労話をされるかと思いきや、そうではなく原発に依存する国と産業界と国民が、今こそこの原発事故から学ぶべき時だ、と話されました。飯館村は合併せず平成十七年から十年間、第五次振興計画を立てスロライフに似た独自の「までいライフ」をコンセプトに村づくりを推進している最中でした。「日本で最も美しい村」連合へ加盟する農業中心の村で、人と地域、自然と食を大切



にする村を目指していたのです。戦後の日本は、経済成長を一貫して目指してきた。そのためか義務を果たさず、権利ばかりを主張する人間が増えてきた。その延長線上に原発がある。との考ええのようでした。地震や津波、台風や大雨は、自然の現象で避けられない。今こそ、この現状を成熟社会を歩む指針にしなければと話された。

行事予定

10月6日	独秀流ご詠歌
10月16日	ご詠歌・観音講
10月21日	写経写仏の会
11月6日	寺交流Gゴルフ大会
11月17日	独秀流ご詠歌
11月17日	ご詠歌・観音講
11月20日	写経写仏の会
11月23日	チャリティーバザー
11月27日	合掌会奉仕作業
12月8日	独秀流詠歌（納会）
12月12日	坐禅会（納会）
12月17日	観音講（十時より）
12月21日	写経写仏の会

坐禅会

十月より朝6時半からです。

都合により、変更することがあります。

「禅ーいまを生きるー」

平成二十八年は、宗祖臨濟禪師の一五〇年の遠諱にあたる。

臨濟義玄禪師ー曹州南華（山東省の兗州府）の生まれ。臨濟は、師家として住持していた鎮州（今日の河北省の正定の地）の臨濟院に因んだ道号で、法諱（僧としての本名）が義玄である。



臨濟禪寺（河北省正定県）

八角九重・高さ三十三メートル

若くして出家し、中国禅の祖師の言葉の他に、『法華経』『華嚴経』『維摩経』『楞伽経』『楞嚴経』など多くの經典や論書を学び、博く伝統仏教を極めていたとされる。

しかし、禪師自ら『臨濟録』の示衆の中で次のように語られている。

「私なども、昔は律に心を留めたことがあり、また経や論の研学にも努めたことがあったが、後になってそれらは世を救う薬、何かを表現した教説にすぎぬと知って、そこで即刻投げ捨ててしまつて、ただちに道を訪ね禅に参じた。」

このように臨濟禪師は当時の伝統仏教を一切投げ捨て、江南の地で黄檗希運禪師の弟子となり、行業純一に修行され、大悟されたという。

臨濟の禅風は後世、機鋒峻烈をもつて知られ、馬上三軍を叱咤する風格から、古来「臨濟將軍」と称される。その禪師の語録が「語録の王」と云われる『臨濟録』である。

「黄檗山頭に會て痛棒に遭い、大愚の肋下に方に築拳を解す……」これは、『臨濟録』の序文の冒頭である。

その昔、臨濟宗の修行僧は諸国を行脚し旅をしました。そして、宗門のお寺に投宿を願う際に、必ず『臨濟録』の序文を暗誦することとなっていました。

『臨濟録』示衆に「殺仏殺祖」の段がある。

道流、你、如法の見解を得んと欲わば、但だ人惑を受くること莫かれ。裏に向かい外に向かつて、逢著すれば便ち殺せ。仏に逢うては仏を殺し、祖に逢うては祖を殺し、羅漢に逢うては羅漢を殺し、父母に會うては父母を殺し、親眷に逢うては親眷を殺して、始めて解脱を得、物と拘わらず、透脱自在なり。

「訳」修行者たちよ、仏法に忠実な、立派な見解を得ようと思うならば、

他人の言った言語に惑わされてはならぬ。内においても外においても出逢ったものに執着するな。たとえば敬すべき仏に逢っても仏のありがたいことに執着する心を殺し、祖師に逢えば祖師に執着する心を殺し、羅漢に逢えば羅漢に執着する心を殺し、父母にあつたら父母に執着する心を殺し、親類眷属に逢えば親類眷属に執着する心を殺して、そうして始めて解脱することができ、何物にも束縛されず、すっきりした自在な生活ができるのだ。

如法の見解を得ようとすれば、人に惑わされてはならぬ。仏に對してありがたいという気持ちも、執着すれば迷いである。執着心をなくしてこそ自在に生きることができののだ。

「訳文」中村文峰（一九九〇）
現代語訳臨濟録 大蔵出版

仏も父母も逢うものは殺してしまえとは、なんとも物騒な表現である。仏祖や父母を殺すことは仏教において最も重い「五逆罪」のひとつであるが、この厳しさは臨濟禪師の慈悲の裏返しといえる。

今日私たちは、技術の進歩によって日常に限らず、医療・福祉・教育あらゆる分野で便利さを享受できる。とは言え、物事には表裏があり、善悪の関係がある。豊かな価値を創造する企業の、千五百億もの粉飾決

算が明らかになったり、便利なコミユニケーションツールであるラインなどSNSの絡んだトラブルや事件事故なども起きている。

何かに囚われえてしまつては本来あるべきの姿、役割が失われ、迷いや執着心を生み間違つたはたらきをしてしまう。



はなしが一般的になつてしまつたが、禅的にも、仏や祖師方があるたい、ありがたいと囚われ執着してしまつと、本来の自己を見失つてしまうことになる。

臨濟禪師は上堂し説かれた。

「私たちの血の通うこの肉体の中に、何者にも代え難い『真実の自己』があつて、常に私たちの感覚器官から出たり入ったりしている。まだその『真実の自己』に気付かないものは、さあ看よ。」

臨濟禪師は仏を否定されたわけではない。本当に自己の内なる『仏』に目覚めれば、我も仏、他も仏、自利利他の自在の生き方が出来ると説くのであります。

お彼岸の起源と実践

お彼岸の法要は、もともとインドや中国では行われていなかったが、中国の「八王日」（立春・春分・立夏・夏至・立秋・秋分・立冬・冬至）に読経持斎すれば、寿命が増長されるという思想が日本に入り、特に春分・秋分の二回を大切にし、お彼岸として法要を始めるようになった。

『日本後記』には大同元年（八〇六）三月辛巳の条に、諸国の国分寺の僧をして春秋二仲日別七日に「金剛般若経」を読ましむ、とあり彼岸会の起源とされている。

さて、彼岸に到る六つの徳目に、六波羅蜜がある。その中の忍辱波羅蜜について、『入菩薩行論』に次のようにある。

「世界中を牛の皮で覆うならば、われわれは跣で歩かれる、しかしそれは不可能である。だが自分の脚に靴をはけば世界中を皮で覆うと同じことである。

世界中を自分の意にかなう理想国にすることは、おそらく不可能である。しかし、われわれが菩提心を発すならば、そして忍辱の靴をはくならば、ただちに世界中は自分の心になう世の中となる。

一度、身も心も一切衆生のためにささげるといふ菩提心を発すならば、凡夫がただちに菩薩になれるのである。鉄を黄金に変ずる術があるならば、それはまさに、奇跡である。だ

が、それよりも偉大なる奇跡は、凡夫が菩薩になれることである。」

河口慧海師訳

『入菩薩行論』は南インド出身のシャーンティデーヴァによって、七百年ごろに作られたとされ、チベットの仏教など大乘仏教に大きな影響を与えた。

宮沢賢治の遺作とされる『雨ニモマケズ』で

ミンナニデクノボ
ートヨバレ
ホメラレモセズ
クニモサレズ
サウイフモノニ
ワタシハナリタイ



彫木菩薩不輕常壁外天帝釈又柴

この、デクノボーなモノは、会う人ごとに「あなたは悟りを開く方だ」と言つて、石を投げられようが、棒で打たれようが礼拝した、『法華経』に出てくる常不輕菩薩の精神を原型にしたとされる。

私たちの愛憎の世の中にあつては、怨みに報いるに怨みをもつて報い、争そいの止まぬことが如何に多いことでしょう。

常不輕菩薩の礼拝の姿勢は忍辱行の実践の姿です。

しかし、忍辱波羅蜜をはじめ六波羅蜜の行を実践することは、簡単ではありません。ゆえに、大切に心に留めておきたい教えであります。

「夏休みの思い出」

今年も八月二十・二十一日に杵築少年剣道部の夏合宿を開催しました。

今回は、社会教育課の依頼を受け「夏休み杵築公民館学校」の仲間二十名と檀家の畔地さん、八坂さんのお孫さんの参加もいただき、総勢六十名近い生徒の皆さんが坐禅を体験しました。

三十分間の坐禅を二回。みっちり坐ったので、キョロキョロ、もぞもぞする生徒も何人か。暑い中みんな頑張りました。



第六回杵築市仏教会交流

グランドゴルフ大会開催

日時…平成二十七年十月二十七日（火）

場所…杵築市営サッカー場（山香）

開会…午前九時十五分

参加…1チーム6名補欠2名まで登録可

各寺院3チームまで出場

※今年度は3チーム出場できればと考えております。

涼しい時期の開催です、檀家の方で出場を希望される方がありましたらご連絡下さい。



【日々是好日】

●八月十五日に戦後七十年にあたり、戦没者慰霊の供養を致しました。お参りいただきました皆様ありがとうございました。●八月十六日の東西御座いました。●八月十六日の東西下司区供養盆踊りの御回向で、今年のお盆の行事・棚経も無事に終えることができました。長男玄悠は一人での棚経となりましたが、道案内などご心配いただき、ありがとう御座いました。●昨年八月の広島市豪雨災害に続き、九月十一日、茨城県常総市で鬼怒川が氾濫し数名の方が犠牲となりました。心からお悔やみと、お見舞いを申し上げます。一日も早い復旧を願います。十八日に臨済宗青年僧の方々と、今回の北関東東北水害の義捐托鉢を大分市内で行いました。●九月二十四日は、敬老会を開催いたします。出席の皆様はお元氣におこし下さい。●十一月二十三日・勤労感謝の日には、チャリティバザーが開催されます。合掌会の役員さんからご連絡があるかと思いますが、バザーの品物がありましたらご協力をお願いいたします。●県外の檀家の方々からも、温かいお手紙やお心遣いを頂いております。時折お礼が遅れることがありますがお許し下さい。寺族一同無事に過ごさせて頂いております。お彼岸が過ぎればすぐに師走が迫ってまいります。檀信徒の皆様方のご清福を心よりお祈り申し上げます。



色紙・広石碩田先生画

ご希望の方は、お申し出下さい。

仏教と数字

数字で表現する仏教の教えを紹介します

② 四華

天上に咲く四つの花のこと。一つは、曼陀羅華（まんだらけ）と言い微妙な赤

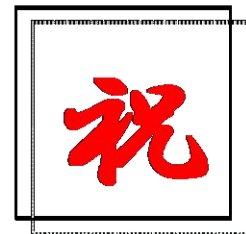
色の花。その大きいのが摩訶曼陀羅華です。地上では、デイゴの花を指します。

三つ目が良く耳にする曼殊沙華（まんじゅしか）でヒガンバナのこと。天上では鮮やかな白色の花と言うことですが、秋の彼岸の頃に咲くことからいつしか曼殊沙華がヒガンバナに定着しているようです。その大きいのが摩訶曼殊沙華です。最近、あまり飾られなくなりましたが、葬儀の時に遺体の枕辺に飾るのがこの四華（しかばな）です。竹の串に切れ目を入れた白紙を巻き付けたものを四本ずつ対で供えます。無常組の人がその都度作ったものでした。

平成27年9月23日を基準日にした番付表です。（9/10現在）

平成27年度 長寿番付表 安住寺敬老場所

西	年齢	おすまい	御免蒙	東	年齢	おすまい
河野シヅ子	99	安岐町	横綱	中村 良吉	99	西新町
田代ハツ子	97	城 山	大関	木付 延雄	97	北九州市
荷宮ユリ子	96	大分市	同	上 昌孝	97	座間市
大嶋 フミ	96	東広島市	関脇	熊澤武次郎	96	下 原
阿部ヤエ子	95	弓 町	同	江藤 ナツ	96	弓 町
清末フサ子	95	西下司	同	中村千代子	95	川崎市
高橋マサエ	95	西下司	小結	今村みきよ	95	日南市
阿部 エミ	94	西 上	同	河野 サワ	94	下 原
古田 初子	94	西大内山	同	小田原房江	94	西 上
江藤 勝司	94	東大内山	前頭 1	平野 芳彦	94	南台東
末松 武士	93	鴨 川	同 2	近藤カメコ	93	北九州市
藤原 孝顕	93	古 野	同 3	井上フサ子	93	西大内山
宇都宮キクエ	93	藤の川	同 4	工藤 絹子	93	東大内山
木野スエ子	93	東下司	同 5	麻生 秀子	93	藤の川
木元ツヤ子	92	北 浜	同 6	阿部 睦子	92	西大内山
柏屋小夜子	92	札ノ辻	同 7	麻生 蓮生	92	藤の川
前田 義美	92	錦 江	同 8	川野 牛太	92	永代橋
藤原ユリコ	91	東大内山	同 9	宗田 季紀	92	東下司
木付 幸子	91	北九州市	同 10	清原八千代	91	日出町
井上恵美子	91	東大内山	同 11	梶取 久	91	別府市
石井ツヤコ	91	新 興	同 12	田椽美智子	91	南台東
磯田 弘道	90	堺 市	十両 1	是久 義文	91	杉 山
麻生 亘	90	藤の川	同 2	田辺 コウ	90	広島市
渡邊 浩行	90	西下司	同 3	松浦シズ子	90	宇佐市
麻生ミツエ	90	別府市	同 4	阿部ノブ子	90	西下司
藤原ヤスエ	90	西大内山	同 5	須賀 清	90	大分市
麻生 博行	90	藤の川	同 6	土肥 妙子	90	永代橋
上 美枝子	90	座間市	同 7	江藤モリ子	90	東大内山
小玉 和江	89	杉 山	同 8	河野 晃	89	西新町



ご長寿

健康長寿を目指して

今年の長寿番付です。一年の間に10名の方が入れ替わりました。中村良吉さんは、新年早々で満百歳になります。全国では、9月11日現在で百歳以上が61,568名もおられるそうです。その内87%が女性です。杵築市も年々増えて百歳以上が22名になりました。96歳でも番付は幕下です。今年も大分県一の長寿者は、杵築市の豊田ミツエさんで113歳です。日本一は、東京在住の女性で115歳だそうです。檀信徒の皆様には、更に健康に留意して上位を目指して欲しいものです。

尚、89歳で番付表に載らない方が他に9名おられます。紙面の都合でお許し願います。誕生日順に掲載しております。

(閑栖記)